

重点事業1：地域包括ケアにおける看護提供体制の強化

事業内容

1. 地域包括ケア推進に向けた看護基盤の強化

- 1) 看護職能の連携強化
 - ①保健師・助産師・看護師の各職能の連携強化及び情報共有のための会議の開催
- 2) 訪問看護に関わる医療機関等との連携会議の開催
- 3) 訪問看護ステーション管理者の育成

2. 地域のニーズに対応できる協会立訪問看護ステーションの機能強化

- 1) 協会立訪問看護ステーションの機能強化の推進
- 2) 協会立訪問看護ステーションの将来のあり方検討委員会の設置

実績概要

1. 地域包括ケア推進に向けた看護基盤の強化

- 1) 看護職能の連携強化
 - ・3 職能と地域包括ケアに関わる委員会が参集しワークショップを開催
開催日時：令和元年7月20日（土）13：00～16：00
テーマ：「知ろう・つながろう」 参加者：32人
- 2) 訪問看護に関わる医療機関等との連携会議の開催
 - ・那覇、南部地域の在宅療養に関わる機関の連携会議開催
昨年度は実施できなかった那覇・南部地域の在宅療養に関わる機関の連携会議を開催した。対象施設が多数の為、二回に分けて開催。二回の開催で42機関から52人が参加。
 - ・北部、宮古、石垣の各地域における訪問看護ステーションの情報交換会
地域毎のネットワークの構築とステーション間で問題解決に向けた動きができるようにするために、地域毎に情報交換会を開催している。宮古島市と石垣市はここ数年実施しているが北部地域は初めての開催であった。3か所の実施で合計24人の参加があった。
- 3) 訪問看護ステーション管理者の育成
 - ・「令和元年度 訪問看護ステーション管理者実践研修」の実施
ステップⅠ・Ⅱの管理者研修の実施。合計参加人数は19人。

2. 地域のニーズに対応できる協会立訪問看護ステーションの機能強化

- 1) 協会立訪問看護ステーションの機能強化の推進
 - ・看護実践力の強化のための研修参加推進とICT化の推進
- 2) 協会立訪問看護ステーションの将来のあり方検討委員会の設置
 - ・令和元年8月21日より4回の委員会を開催し、令和2年3月25日に答申を受けた。

事業実績

1、地域包括ケア推進に向けた看護基盤の強化

1) 看護職能の連携強化

本会においては平成 27 年度より「地域包括」を重点事業に位置付け取り組みを行っている。しかし、職能や委員会が地域包括に向けてどのような活動を行っているかよくわからないという声もあり、委員会等の連携と情報共有のために、「情報共有・連携」をキーワードに地域包括ケアシステム構築の推進に特化したワークショップを開催した。

実施日：令和元年 7 月 20 日（土）13：00～16：00

テーマ：「知ろう・つながろう」、場所：看護協会第一研修室 参加者：32 名

内容：参加者が 4 グループに分かれテーマに沿ったラベルワークを行い、全体発表での情報の共有を行った。ラベルワークから“地域とつながり生活を支援する”⇒そのために「関心を持ち続ける」「つながり続ける」のキーワードが抽出され、今後の課題を共通認識した。

2) 訪問看護に関わる医療機関等との連携会議の開催

在宅療養に関わる関係者や訪問看護ステーション間での意見交換によるネットワークの構築と、課題解決に向けた取り組みができることを目的に、情報交換会や地域の連携会議を開催。

(1) 訪問看護ステーション等在宅療養支援機関連携会議

対象地域：那覇・南部地域

日時：10 月 30 日（水）、参加者 20 人、11 月 13 日（水）、参加者 32 人

内容：2 日間の合計で、42 施設から 52 人が参加した。事前に他機関との連携についてアンケートにより意見聴取し、その意見を中心に会議を開催した。以前までは退院調整会議の開催の有無等に関する話題が多かったが、今回はサマリーの記載内容やカンファレンスの効果的な持ち方等の一步踏み込んだ内容に変化してきている。

(2) 訪問看護ステーション情報交換会

・対象地域：北部地域

日時：7 月 24 日（水）、参加者 10 人

場所：名護療育医療センター内コミュニティーホール

内容：今回はじめて開催した北部地域の情報交換会であった。県内他事業所の情報発信が出来たことと、北部地域の事業所運営の現状を把握する事が出来た交流会になった。北部地域は中・南部地域と比較して情報発信の機会が少ないため、今後も年 1 回の情報交換会は実施する必要があると考える。

・対象地域：宮古地区

日時：12 月 13 日（火）、参加者 9 人

場所：沖縄県宮古事務所（合同庁舎）

内容：宮古地域の問題点の共有と問題解決に向けた動きのきっかけがつかめた会議になった。問題点が地域の課題としての認識はあっても、課題解決に向けた動きの方向性を見出すきっかけがつかめないため、今後も情報交換会は継続して行う必要がある。

・対象地域：石垣地区

日時：12 月 17 日（火）、参加者 5 人

場所：訪問看護ステーションうりずん

内容：石垣地域が抱えている問題点の共有が行なえたことと、問題解決に向けた情報共

有につながった。本情報交換会は、離島事業所の事業運営状況の把握や、県内事業所状況の情報提供の場として毎年実施する必要があると考えている。

3) 訪問看護ステーション管理者の育成

訪問看護ステーションで働く職員と管理者の育成研修として、訪問看護支援事業企画により下記研修を実施した。

(1) 訪問看護ステーション管理者実践研修（計画書作成）

日時：令和1年9月28日 10:00～16:00

場所：看護協会研修室 参加人数：7人（6事業所）

内容：8月の研修を基礎として、2グループに分かれたディスカッションを行いながら、各事業所の課題解決のための実践計画書の作成を行った。

(2) 訪問看護ステーション管理者実践研修（実践報告会）

日時：令和2年1月25日 10:30～16:00

場所：看護協会研修室 参加人数：12人（実践報告者4人）、スーパーバイザー：谷口 由紀子

内容：9月の管理者実践研修で作成した「実践計画書」に基づいて、取り組んできた過程や成果について整理し報告を行った。スーパーバイザーからの具体的な助言もあり、管理者のモチベーションアップにつながったと考える。今回の管理者研修は少人数の参加者ではあったが濃厚なグループワークを行うことができた。次年度は新規事業所も含めたより多くの事業所管理者の参加を呼び掛けたい。

2、地域のニーズに対応できる協会立訪問看護ステーションの機能強化

1) 協会立訪問看護ステーションの機能強化の推進

各ステーション職員の研修は各自の個人目標管理に基づいて、質の向上のための研修、今年度入職した新入職職員の研修、管理者研修等、県看護協会の研修や地域の研修会を中心に受講した。研修の延べ参加人数は130人であったが、離島地区の研修参加が本島地区に比べて少なく、継続した課題である。

*ステーション職員の研修参加状況

主催	参加人数
県外研修	15
沖縄県看護協会主催研修	63
中核病院や県内医療福祉関連機関の研修	52
延べ人数	130人

又、スタッフ間の情報の共有、記録の充実等を含めたICT化の推進のため、STみやことSTうりずんの情報共有システムの導入を計画し、8月1日から稼働開始している。これで4ステーションのICT導入が完了した。

2) 協会立訪問看護ステーションの将来のあり方検討委員会の設置

地域包括ケアシステムの構築が進む中、協会立訪問看護ステーションのあり方について特別委員会を設置し検討した。令和元年8月21日の第一回会議から4回の会議を経て、令和2年3月25日に答申を受けた。答申の内容を踏まえ、県内訪問看護の質の向上に貢献できるステーションとして教育的な役割を果たすため、訪問看護師教育プログラムの整備、訪問看護実践力強化、訪問看護ステーション管理者の育成支援研修等令和2年度から取り組む事項と訪問看護支援体制等将来に向けて検討すべき事項を分類し対応を行っていく。

活動実績

1、訪問看護ステーションの実績

- 1) 看護師数においては、4ステーションの総人数 33 名（うち 1 名は育児休業中）、前年度（28 名）比+5 名（常勤換算 2.1 人増）。ST みやこ・ST はえばる・ST のぞみで増員があった。
- 2) 利用者の年間訪問延べ数は、前年度比+803 回で、「ST のぞみ」と「ST みやこ」の訪問延べ数が増加した。
- 3) 重症児のレスパイト支援 13 名（うりずん 4 名・はえばる 9 名）、渡嘉敷島へ 3 名の訪問看護を実施。

2、居宅支援事業所の実績

- 1) 居宅の介護支援専門員は、「のぞみ」が非常勤職員の加入で 2 名、「はえばる」2 名のうち 1 名が 11 月末に定年で退職し 1 名、「ていだ」が 1 名、「うりずん」1 名であり昨年度と同様の 5 名。
- 2) 居宅の利用者数は、昨年度総利用者数は 1737 人、今年度は 1706 人であった。12 月からは職員数減より利用者数も減少した。
- 3) 要介護認定調査は、年間 110 件で前年度比+5 件であった。離島からの調査依頼が多くなっている現状は昨年度と同様。

3、8 事業所の収益合計

訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所を合計した当期経常増減額は、4,089,777 円の黒字（前年度比-6,305,806 円）であった。

4、「訪問看護ステーションはえばる北部出張所」（サテライト）の状況

母体を ST はえばるとして「訪問看護ステーション北部出張所」を平成 30 年 4 月 1 日に開設。令和 1 年度末の利用者の状況として、現在 3 人の小児利用者への対応を行っており、他の利用者も徐々に増えつつある。今後も行政や中核病院の連携会議等にも参加しつつ、出張所が地域に浸透するために更なる努力が必要だと考えている。

5、地域貢献

- 1) 浦添看護学校、琉球大学医学部保健学科、県立看護大学、ぐしかわ看護学校、福岡看護専門学校学生、穴吹看護専門学校等の在宅実習の受け入れ→延べ人数 422 人。（昨年比+10 人）
- 2) 緩和ケア認定看護師教育課程研修の在宅実習の受け入れ。
- 3) 県立中部病院初期研修医の在宅実習の受け入れ。
- 4) 「訪問看護ステーションと医療機関における相互研修」の研修生の受け入れ。→合計 61 人
- 5) 石垣市、那覇市、沖縄県からの重症児のレスパイト支援の実施。
- 6) 渡嘉敷島への訪問看護の実施→4 人
- 7) 浦添看護学校・沖縄看護専門学校・那覇看護専門学校の在宅看護論の講義の講師派遣。
- 8) 琉球大学医学部「在宅看護実践学」の講義の講師派遣。
- 9) 主任介護支援専門員更新研修における講師派遣。
- 10) 介護支援専門員専門研修における講師派遣。
- 11) 宮古島市高等学校出前講座講師派遣。
- 12) 大学の学内就職説明会に卒業生発表者として参加。
- 13) 協会一般研修（訪問看護入門研修）における講師派遣。
- 14) 那覇市・南部地区医師会合同研修における講師派遣。
- 15) おきなわがんサポートハンドブック編集委員として職員派遣。

6、事業所の人材育成

- 1) 沖縄県保健師助産師看護師実習指導者講習会（病院以外の特定分野）受講。→1名
- 2) 訪問看護ステーション管理者実践研修受講。→1名
- 3) 令和元年度エイズ研修受講。→1名
- 4) 厚労省主催「訪問看護講師人材養成研修会」受講。→1名
- 5) 全国エイズ学会発表

7、事業総括と今後の課題

- 1) 令和元年度は「協会立訪問看護ステーションの将来のあり方」について、特別委員会が開催され、諮問事項に対して答申を受けることができた。答申の内容を踏まえて、具体的な方策について検討し推進していく必要があると考えている。
- 2) 協会立4居宅支援事業所については、「居宅のぞみ」以外は1人介護支援専門員体制であることと、今後主任介護支援専門員が必置になるため、今後の居宅支援事業所のあり方についての検討は継続した課題。
- 3) 小児への対応可能な事業所が少ない北部地域の療養環境の改善の一部を担うため、「訪問看護ステーションはえばる北部出張所」を設置した。3月末現在小児の利用者が3名である。現状の職員体制では今後の北部地域のニーズを担う体制としては十分とは言えず、今後も安定した職員体制を整えていくための努力が必要。
- 4) 訪問看護師の質向上のために継続した人材育成が必要。
- 5) 病院看護師や他訪問看護ステーション等との相互研修を継続し、病院看護師と在宅看護師の連携を図る必要がある。
- 6) 安定的な訪問看護ステーションの運営のためには、次世代の管理者の育成が重要だと考えているが、人材を確保し、計画的な育成を行うという点での難しさがある。特に離島地域においては通常研修においても研修の機会が限られている。更に職員の長期研修となると現場の人的余裕も必要であり、看護管理者教育課程等の研修受講が難しい状況である。

訪問看護支援事業の実施状況（県の受託事業）

【事業目的】：在宅医療・介護サービスの充実に向けて、訪問看護師の人材育成及び在宅ケアサービスの質向上を支援・推進するための拠点・支援体制整備を行うことを目的に本事業を行っている。

【実施期間】：平成31年4月1日～令和2年3月31日

【事業内容】：1. コールセンターの運営管理（電話相談等 196 件）

*相談方法別件数

電話	来所	メール・FAX	訪問	計
168	25	2	1	196

*相談者別件数

訪問看護ステーション	医療機関	介護事業所・施設等	行政・保健所等	一般	他	総数
127	20	12	19	15	3	196

*相談内容別件数

訪問看護の制度について	診療報酬について	相談（開設・対応等）	その他	計
41	27	16	43	127

相談内容別件数の「相談（開設・対応等）」では、訪問看護ステーションの開設方法の相談や、利用者の支援方法・外国人の対応・家族の療養生活に困っている・訪問看護ステーションを紹介してほしい等の内容であった。「その他」の内容は、研修について等であった。

2. 訪問看護師の育成及び資質向上のための事業

①訪問看護事業所自己評価実施（6月～8月）：117事業所中 59事業所（50%）

②訪問看護事業所自己評価研修：8/31（25人）

③訪問看護管理者研修⇒ア. 管理者実践研修Ⅰ（計画書作成）：9/28（7人）

イ. 管理者実践研修Ⅱ（実践報告）：1/25（12人）

④小児在宅看護：11/30（41人）

⑤訪問看護ステーション間の相互研修：5月～令和2年2月（6人）

3. 「訪問看護ステーション」と「医療機関」における相互研修：5月～令和1年2月（60人）

医療機関⇒ステーション（57人）、ステーション⇒医療機関（3人）

4. コーディネート：*事業所相談事例の事例検討会への参画（5/30）*事例相談（9/6）*訪問による管理者支援：1件（12/12）*講師：都道府県訪問看護ステーション連絡協議会交流会における実践報告（6/19）、病院内幹部会における訪問看護に関する勉強会講師（7/18）*地区委員主催の連携会議への参画（8/24）、*訪問看護ステーション研修（OJT）調整 *その他:認定看護師（セカンドレベル）教育課程在宅研修実地調整（10事業所）

5. 「訪問看護ネット沖縄」アクセス件数：28,992件

*看護師採用合同説明会：4/6（14人）、看護フェア（5/18）沖縄県看護協会会報への記事掲載（V o 194、97）

6. 在宅療養を維持するための推進事業

*訪問看護ステーション等在宅療養支援機関連携会議：那覇・南部地区 10/30（20人）、11/13（32人） *訪問看護ステーション情報交換会：北部地区 7/24（10人）、宮古地区 12/13（10人）、八重山地区 12/17（5人）

令和元年度 在宅ケア事業概要

1. 職種別従業者数

《》 派遣

令和2年3月末現在(人)

事業所名	看護職		介護支援専門員	事務職	計
	正規職員	非常勤・パート			
はえばる	3	10	1	1 《1》	15
のぞみ	1	6	2	1 《1》	10
みやこ	2	5	1	1	9
うりずん	2	4	1	1	8
看護協会事業課		4		1	5
令和元年度合計	37		5	5	47
平成30年度合計	32		5	6	43

2. 令和元年度 事業所目標

訪問看護ステーション	目 標
はえばる	1. 看護の質向上とを図り、利用者に満足できる訪問看護を提供する。 2. 北部サテライト事業を含め、安定した経営を図る。
のぞみ	1. カンファレンスを充実させ、提供するケアの質を向上させる。 2. 安定した経営を行う。
みやこ	1. 看護の質向上を図り訪問看護の魅力を発信する。 2. 個人目標に沿った研修参加等によりスキルアップに努める。 3. ICTを活用することで記録の短縮や多職種の連携のネットワーク作りに努める。
うりずん	1. ニーズに合わせた看護を展開できる。 2. 経営の安定（効率的な事業運営）。 3. 地域への貢献

居宅介護支援事業所	目 標
はえばる	1. 主任ケアマネの資格取得の準備。 2. 法令に沿った書類の整備を行う。 3. 介護支援専門員としての資質 j 工場の為の自己研鑽に努める。
のぞみ	1. ケアマネジャーの増員。 2. 地域包括システムに於いて育成事業や地域貢献に努める。 3. 訪問看護と協働し、地域のニーズに応える。 4. 電子カルテの有効活用。
ていだ	1. 各介護サービスが多様化していく中、各研修会・勉強会に参加し適正なサービスを利用者に提供していく。 2. 「利用者の望む生活、利用者の自立」を目標に支援していく。 3. 法令順守を心がけ、日ごろの書類整理を計画的に行う。
うりずん	1. 収支のバランスを図り、事業の安定を目指す。 2. 法令の順守と適正プランの作成。 3. 業務の効率化を図り、タイムリーに記録や書類の作成ができる。

3. 事業所の主な活動項目

- 1 訪問看護・居宅介護支援・要介護認定調査・介護予防支援事業・レスパイトの実施
- 2 人事関係：退職者4人、採用 8人、産休からの復職1名、育児休暇1名
ST1名、居宅1名の定年退職あり
- 3 STみやこ実地指導 (8/1)
- 4 居ていだ実地指導 (8/27)
- 5 居宅うりずん実地指導 (8/28)
- 6 居宅はえばる実地指導 (9/26)
- 7 訪問看護事業所指定更新 (4事業所)
- 8 居宅介護支援事業所指定更新 (3事業所)
- 9 STみやこICT導入
- 10 STうりずんICT導入
- 11 4訪問看護ステーションの事業所自己評価の実施
- 12 事業所管理者会議開催(2回)
- 13 看護学生の実習受け入れ
- 14 病院・他ステーション等の相互研修の受け入れ

令和元年度 訪問看護等事業実績 I

【事業所経常増減額】

令和元年度 (円)	
全事業所経常収益	189,908,483
全事業所経常費用	185,818,706
当期経常増減額	4,089,777

STはえばる実績

はえばる	利用者数	訪問件数
4月	54	389
5月	50	331
6月	48	359
7月	51	397
8月	54	381
9月	51	370
10月	53	425
11月	57	382
12月	61	416
1月	54	361
2月	57	323
3月	62	421
R元年度計	652	4555
H30年度計	607	4599

STのぞみ実績

のぞみ	利用者数	訪問件数
4月	39	440
5月	45	441
6月	46	381
7月	48	385
8月	43	453
9月	42	425
10月	43	519
11月	42	476
12月	43	441
1月	41	414
2月	41	392
3月	39	453
R元年度計	512	5220
H30年度計	437	4294

STみやこ実績

みやこ	利用者数	訪問件数
4月	44	243
5月	44	248
6月	43	226
7月	43	257
8月	45	267
9月	41	244
10月	41	285
11月	43	246
12月	45	252
1月	44	267
2月	45	246
3月	44	290
R元年度計	522	3071
H30年度計	498	2858

STうりずん実績

うりずん	利用者数	訪問件数
4月	42	336
5月	44	323
6月	44	309
7月	41	336
8月	41	274
9月	39	257
10月	43	303
11月	39	270
12月	40	245
1月	42	231
2月	40	231
3月	42	256
R元年度計	497	3371
H30年度計	492	3663

訪問看護ステーションの介護保険・医療保険利用者別の人数と対象別人数 (令和2年3月現在) (人)

	介護保険	医療保険	小児看護	精神看護	成人・高齢者等	難病看護	ターミナルケア
STはえばる	17	45	19	9	25	7	2
STのぞみ	9	30	12	0	21	6	0
STみやこ	23	21	6	3	29	5	1
STうりずん	11	3	4	18	12	4	4
R元年度計	60	99	41	30	87	22	7
H30年度計	61	120	38	32	78	22	11

居宅介護支援事業所の介護度別の利用者人数 (令和2年3月現在) (人)

	要支援1	要支援2	介護度Ⅰ	介護度Ⅱ	介護度Ⅲ	介護度Ⅳ	介護度Ⅴ
居宅はえばる	0	13	12	4	4	6	4
ケアプランセンターのぞみのぞみ	0	0	6	4	10	6	8
居宅ていだ	1	1	2	3	2	9	7
居宅うりずん	5	0	4	4	7	2	3
R元年度計	6	14	24	15	23	23	22
H30年度計	2	19	20	28	23	21	34

令和元年度 活動実績 II

訪問看護利用者の動向

(単位:人)

	STはえばる			STのぞみ			STみやこ			STうりずん		
	新規	終了	ターミナル	新規	終了	ターミナル	新規	終了	ターミナル	新規	終了	ターミナル
4月	2	5	4	0	2	2	4	3	2	6	1	1
5月	2	0	3	7	3	1	3	2	1	3	1	4
6月	3	0	2	3	1	1	1	2	0	1	4	5
7月	3	1	1	3	5	3	2	1	0	1	1	4
8月	3	3	2	3	5	3	3	4	2	2	2	2
9月	2	1	2	2	2	2	1	2	0	0	1	1
10月	3	2	2	4	1	4	1	2	1	1	1	1
11月	5	0	1	4	1	3	4	1	0	0	0	1
12月	3	1	1	2	5	2	2	2	2	2	1	2
1月	0	4	0	1	1	2	1	1	1	3	2	4
2月	3	2	1	1	1	1	2	3	1	1	3	2
3月	7	0	2	3	3	0	2	3	1	4	3	4
R元年度計	36	19	21	33	30	24	26	26	11	24	20	31
H30年度計	42	38	38	33	24	15	22	24	14	28	32	30
R元年度利用者累計	92			71			66			60		
H30年度利用者累計	95			65			63			66		

実習生等の受入状況 (延数)

(単位:延べ人数)

	実習受入機関	STはえばる		STのぞみ		STみやこ		STうりずん		計
		訪問看護	居宅	訪問看護	居宅	訪問看護	居宅	訪問看護	居宅	
1	沖縄県立看護大学	6				48				54
2	中部医師会立ぐしかわ看護学校			31	11					42
3	琉球大学保健学科	34	4	25						63
4	湘央学園 浦添看護学校	79	20	46	12					157
5	穴吹学園 (通信制)	12		8						20
6	福岡看護専門学校 (通信制)	4		12						16
7	緩和ケア認定看護師教育実習	20		20						40
8	県立宮古病院研修医					25				25
9	県立中部病院研修医			5						5
計(令和元年度)		155	24	147	23	73	0	0	0	422
計(平成30年度)		147	24	154	23	64	0	0	0	412

ステーションにおける病院看護師の研修受入状況

(単位:人)

	所属機関	STはえばる	STのぞみ	STみやこ	STうりずん	備考
1	沖縄県立中部病院		6			病院と在宅の相互研修
2	沖縄県立南部医療センター・ こども医療センター	16				病院と在宅の相互研修
3	沖縄県立北部病院		9			病院と在宅の相互研修
4	那覇市立病院	9	9			病院と在宅の相互研修
5	県立宮古病院			12		病院と在宅の相互研修
計		25	24	12		計 (61)

令和元年度 活動実績 Ⅲ

1、令和元年度 各事業所参加会議等

〈事業所〉 〈会議名〉

- 【STはえばる】 がん情報提供資料2020年版編集作業部会
 北部訪問看護ステーション連絡協議会
 那覇市在宅医療・介護連携支援ネットワーク協議会作業部会
 那覇市地域密着型サービス運営会議
 沖縄県がん診療連携協議会緩和ケア・在宅医療部会在宅ワーキング
 北部地区訪問看護ステーション情報交換会
 看護協会教育委員会
 那覇市精神保健医療福祉連携会議
 沖縄県地域包括システム推進会議在宅医療連携部会
 南風原町医療的ケア児支援のための関係機関協議会
 北部地区訪問看護ステーション交流会
 沖縄県医師会入退院支援連携指針作成ワーキンググループ
 沖縄県医療的ケア児等支援者養成研修
- 【STのぞみ】 うるま市介護保険交流会
- 【STみやこ】 ルーラルナーシング学会宮古地区実行委員会
 在宅支援情報交換会
 宮古地区訪問看護連絡協議会
 地域連絡協議会
 難病対策地域ネットワーク会議
- 【STうりずん】 精神障害者支援機関連携会議
 石垣市訪問看護ステーション連絡協議会
 在宅難病会議
 医療ケア児の会議
- 【居宅はえばる】 南風原町ケアマネ連絡会
 南風原町地域ケア会議
 看護協会看護フェア委員会
- 【居宅のぞみ】 うるま支部ケアマネ幹事会
 うるま市介護認定審査会
 うるま市自立支援型地域ケア会議
 中部病院地域ケア科多職種交流会
- 【居宅ていだ】 宮古島市ケアマネ定例会
 トライアスロンリーダー会
- 【居宅うりずん】 八重山地区地域ケア会議

2、令和元年度 講師派遣状況

〈事業所〉 〈題名〉

〈主催〉

- 【STはえばる】 訪問看護入門研修 沖縄県看護協会
 訪問看護入門研修 沖縄県看護協会
 「在宅看護実践学」講義 琉球大学医学部
 「在宅看護論Ⅰ」講義 那覇看護専門学校
 「在宅看護方法論Ⅰ」講義 沖縄看護専門学校
 学内就職説明会 琉球大学医学部保健学科
 那覇市・南部6市町村在宅医療・介護連携推進事業合同研修会 那覇市・南部地区医師会
- 【STのぞみ】 「在宅看護学方法論Ⅱ」講義 浦添看護学校
- 【居宅ていだ】 高等学校出前講座 県立宮古高等学校
- 【居宅のぞみ】 琉球大学医学部「在宅看護実践学」講義 琉球大学医学部
 令和元年度沖縄県介護支援専門員研修 介護支援専門員協会
 令和元年度沖縄県主任介護支援専門員実務研修 介護支援専門員協会